

第 25 回 ワークショップ検討タスク 議事録（案）

1. 開催日時 : 2024 年 10 月 29 日（火） 13 時 30 分～15 時 10 分
2. 開催場所 : 一般社団法人 日本電気協会 4 階 C 会議室（Web 併用会議）
3. 出席者 (順不同、敬称略)
出席委員：三浦主査(中部電力), 宇奈手(三菱重工業), 佐藤(日立 GE ニューカリア・エナジー),
杉村(日立 GE ニューカリア・エナジー), 工藤(東芝エレキシスシステムズ), 竹添(九州電力),
仲村(東京電力 HD), 西田(東京電力 HD), 中條(中央大学),
中西(慶應義塾大学), 鈴木哲(元中部電力), 首藤(元電源開発) (計 12 名)
代理出席者：なし (計 0 名)
欠席委員：奈良(北海道電力) (計 1 名)
常時参加者：なし (計 0 名)
説明者：直井(日本電気協会) (計 1 名)
オブザーバ：なし (計 0 名)
事務局：浅見, 高柳, 上野, 田邊 (日本電気協会) (計 4 名)

4. 配付資料

- 資料 No.25(1)1 原子力規格委員会 品質保証分科会 ワークショップ検討タスク
委員名簿
- 資料 No.25(1)2 原子力規格委員会 品質保証分科会 ワークショップ検討タスク
委員名（出欠）
- 資料 No.25(2)1 第 24 回 ワークショップ検討 タスク 議事録（案）
- 資料 No.25(3)1 第 14 回 JEAC4111 ワークショップの開催テーマ案について
- 資料 No.25(3)2 JEAC4111-2021 ワークショップ（2025 年度開催）について
- 資料 No.25(3)参考 1 第 13 回 JEAC4111 ワークショップ準備スケジュール
- 資料 No.25(3)参考 2 JEAC4111 ワークショップ（旧コースIV講習会）実績一覧

5. 議事

事務局より、本タスクにて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後、三浦主査による開催の挨拶があり、その後議事が進められた。

(1) 代理出席者、常時参加者、説明者、オブザーバの承認、定足数確認等 他

事務局より、確認時点で出席数は 12 名の出席であり、タスクグループ規約第 9 条（決議）

で必要な決議条件（委員総数(13名)の3分の2以上の出席）を満たしていることが確認された。また、説明者1名の紹介があり、その後、配布資料の確認があった。

(2) 前回議事録確認

事務局より資料No.25(2)1に基づき、前回議事録の紹介があり、正式議事録とすることについて、タスクグループ規約第9条（決議）に基づきWebの挙手機能により決議の結果、出席委員の5分の4以上の賛成で承認された。

(3) 第14回JEAC4111ワークショップのテーマについて

三浦主査及び事務局より、資料No.25(3)シリーズに基づき、第14回JEAC4111ワークショップのテーマについて説明があった。

- ・ 前回の議論も踏まえ、パフォーマンス向上、システムアプローチ、CAPの3つをテーマ候補として提案。
- ・ システミックアプローチはフィロソフィー（哲学）であるため、全てに掛かってくる。そのため、テーマとするよりもパネルディスカッションにおける視点のひとつとして取り入れることとし、テーマからは取り下げる。
- ・ パフォーマンス向上に対する取り組みとして、計画の質を高めるという論点の中で、その具体的な要素の1つとしてCAPを取り上げてワークショップを構成するという方向ですすめる。
- ・ ワークショップ開催形式は、日本電気協会の会議室を使用し、対面で実施する。また、当日の状況をビデオ収録し、オンデマンド配信する。配信期間中の質問も受け付け、回答を行う。質問及び回答については質問の当時者だけでなく原則公開とする。
- ・ タスクの検討状況については、第66回品質保証分科会（11月11日）で報告する。
- ・ 次回の開催時期は別途調整する。議題としては具体的なプログラムの案を詰めることとする。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ (三浦) 主査だが、事例として特にないのであれば、中部電力で実施している事例として、パフォーマンスの向上という名目ではないが、リスクマネジメントについて取り組んでおり、その話を簡単に説明する。リスクマネジメントでは、リスクを洗い出して、見出されたリスクに対して、どの様な対応をしたら良いかを検討することになる。原子力発電所における重要な品質保証活動として、3H（変化、初めて、久しぶり）に係る作業や、設計の変更、原子力安全に影響を与えるような是正処置があるが、それらを実施する際に、どの様なリスクがあるか洗い出しを行い、それらへのリスク対応を実施することについて、2次文書および3次文書に規定している。結果として、そのような取り組みが計画の質を高める活動に繋がるのではないかと考えている。リスクマネジメントについては導入している他の電力事業者も有ると思うので、その様な観点で事例として取り上げることは出来ない

ことではないと思っている。ただし、結果として計画の質を高めることになるものの、それが JEAC4111 に基づく活動かというと少し違うのではないかと思うが、そういった事例紹介もあるのではないかと思う。

それについては、資料 No.25(3)1 の 6 頁で「(5)案の絞り込みについて（今回 WS 検討タスクでの追記）」において、一部のタスク委員と事前にブレインストーミングとして実施した議論結果を記載している。①の内容のとおり、リスクマネジメントを導入した事業者において、重要な保安活動においてリスクマネジメントを実施するということについて、活動の計画を高めるものとして紹介できるかと考える。また、このブレインストーミングで議論した中で、計画の質を高める活動というよりは、逆に計画時のリスク想定が不十分であった場合の失敗事例を取り上げることで議論ができるのではないか、結果的に計画の質を高めるにはどの様にしたらよいかということを議論することに繋がるのではないかという意見があった。また、BWR についても再稼働への取り組みが大分進んできている中で、再稼働に対するリスクの洗い出しとそれらへの対応についても事例としてふさわしいのではないかということである。テーマ案の 1 つ目としてはその様なことでも良いと思う。

- ・ (鈴木哲) 資料 No.25(3)1 の 1 頁の「(1)案 1 : パフォーマンスの向上に関する事項」について、リスクマネジメントもその内の一つであるので賛成である。また、CAP についても、取り組みの結果が PDCA として P の計画に戻っていくはずであり、もう少し議論をすれば成立すると思った。リスクマネジメントについては、「リスク情報の活用」を JEAC4111-2021 の 4.1 節に入れてある。リスクマネジメントそのものに取り組むことについて JEAC4111 で求めている訳ではないが、リスクマネジメントを考えるのは良いことであると考えている。

- ・ (中條) 計画の質を高めることには、リスクアセスメント、リスクマネジメントは特に関わってくるので、テーマの 1 つになると思う。もう 1 つは、RCA のように、上手くいっていない活動に対する分析も、計画の質を高めることに繋がるはずと思っている。

そういう意味では、RCA のような分析を実施したことにより、リスクマネジメントの弱い部分が浮き彫りになり、リスクアセスメントを見直したという事例があると一番良い。なかなかそれは難しいと思うが、RCA のような分析については、計画の質を高める要素になるので、それらを含めて考えても良いと思った。

RCA というと重大な不適合に関する事例となり、重々しく受け止める人もいると思うが、CAP での取組みの様に、小さい事例を集積して自分たちの組織の弱いところを見つけることも、計画の質を高めることにつながると考える。

- ・ システミックアプローチはフィロソフィー（哲学）であり、テーマとするよりもパネルディスカッションにおける視点のひとつとして取り入れる方が良い。テーマとしては取り下げとしたい。
- ・ (工藤) CAP に関して AI を活用している事例について、どこまで実用に近づけているかは不明であるが、弊社で実施している CAP 運用を支援するシステムとして、AI を組み込

み、CR 登録の際に分類の判断のサポートをするサービスを提供している。ただ現状では、画像を読んだり、文書を読んだりして解析をするところまでにはなっておらず、キーワード検索のように、蓄積された不適合の情報から推測して分類の候補を示すことにより入力された CR 情報の分類を支援することや、過去の類似事例を参考に表示するなどがある。CAP では、多くの人が一つのシステムに登録を行うので、正しく入力されていないと統計的にデータ分析を実施する際に問題となるので、入力支援としてのサービスを提供している。

- ・ CAP をテーマにするのであれば AI に関する取り組みも含めて紹介できるとよいと考える。
- ・ (首藤) 今回の意見を踏まえて考えると、CAP、リスクマネジメント、AI を使用する集積 RCA など個々の取組みが上がっているが、全体としてはパフォーマンス向上につながっていることであり、そのようなまとめ方（見せ方）をすることが良いと思う。
- ・ 提示した 3 つのテーマ以外のテーマ案についても、前回タスクで議論を行ったが、テーマとして取り上げるよりも、パネルディスカッションの論点のひとつとした方が良いと考える。
- ・ (三浦) CAP を主体として、パフォーマンス向上につながるように、テーマとしてまとめることとしたいがご意見はないか。
- ・ (鈴木哲) パフォーマンス向上も CAP についても、区別をして取り扱う必要はないと考える。
- ・ (首藤) ワークショップとしては、規制庁から注目されている CAP や再稼働に対するリスクマネジメントなどは、旬な話題であり、よいと考える。
- ・ (中條) CAP をテーマとすることで良いと考えるが、その際には、横断的に分析を実施して、自分たちのマネジメントの弱いところを明確にするということにフォーカスを当てるべきではないかと考える。その意味で、個別の事象に対する処置とは区別して考えないといけない。自分たちのマネジメントシステムの弱い点は何処かという取り組みであれば CAP で良いと考える。そうすればパフォーマンス向上にもつながると考える。
- ・ (三浦) 全体としてパフォーマンス向上に向けた取り組みとして、計画の質を高めるという論点の中で、そのための具体的な要素の 1 つとして CAP を取り上げて、ワークショップを構成するという方針で考えていくことにしたいと思う。本日の意見も踏まえて資料をまとめて 11 月 11 日の品質保証分科会で報告することしたい。
- ・ ワークショップの開催形式については、日本電気協会の会議室を使用して収録を実施し、収録したものをオンデマンド配信して、配信期間中であれば質問も受け付けることができるようとする。

(4) その他

次回 JEAC4111 ワークショップ検討タスクについては、ワークショップのプログラム案について検討することとして、開催日については別途連絡する。

以 上